

悲劇を2度とくりかえしてはいけない。

平和のために、

戦争を忘れない。

『「戦争」を語る』

立花 隆／著（文藝春秋）

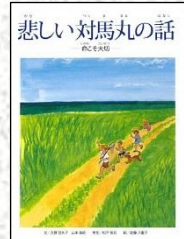


被爆の記憶を後世に残すために、日本人は何をすべきか？立花隆が、引揚体験、広島、長崎、アウシュビッツを通して、「いま伝えておきたいこと」を語る。

「戦争」を語る
「ヒロシマから平和
を語り継ぐために
いま語らなければならない」

『悲しい対馬丸の話 一命こそ大切』

久野 登美子／文 山本 和昭／英文 佐藤 八重子／絵
（フレーベル館）



太平洋戦争末期、沖縄の子どもたちを乗せた学童疎開船が潜水艦の魚雷攻撃を受けて沈没し、多くの学童が犠牲になった「対馬丸事件」を描いた絵本。

＼ オススメの児童書 ＼

『じゃんけん戦争』

あっちの国 こっちの国』

小倉 宗／著（新風舎）



突然の戦争に困惑する王様と興奮しながら準備を進める総理大臣。そんな中、戦争を絶対にしたくない若い役人と町内会長は、人を傷付けたり殺さなくてすむ方法を考え出し…。易しく楽しい内容ながらも、戦争・平和とは何か、考えるきっかけになる一冊。

加治木図書館 8月 の展示紹介

昔話に親しむ

『ねずみのすもう』



大川 悦生／著
梅田 俊作／絵
（ポプラ社）

山でねずみのすまうを自撃したびんぼうなじいさま。負けてばかりのやせっぼちのねずみが自分の家のねずみだと分かったじいさまは悔しくて…。

言わずと知れた恐怖の絵本！

『いるのいないの』

京極 夏彦／作 町田 尚子／絵
東 雅夫／編（岩崎書店）



おばあさんの古い家で暮らすことになった「ぼく」。ある日、家の梁の上の暗がりには、じっと下を見ている男の顔を見つけた。こわくなった「ぼく」は、おばあさんに聞いてみるのだけど…。

おばけ・妖怪・こわい本！

「夏休みの宿題関連本」「身を守るための本」「子どもと作る料理本」「季節の絵本」は、先月に引き続き展示中！



リニューアルしました！